



日々これ般若心経

薬師寺執事長 加藤朝胤

NHKラジオ
明日へのことば
2012年11月10日

加藤 朝胤（かとう ちょういん）

昭和24年愛知県尾西市生まれ。23歳の時入山し、高田 好胤師に師事。日本大学卒業。龍谷大学文学部佛教学科卒業。教務執事、管財執事、東京別院輪番を歴任。現在、薬師寺宝物管理研究所主任研究員。薬師寺執事長。全国で、「般若心経のこころ」など、をテーマに布教活動を行うかわら、仏教美術の研究をライフワークとしている。

薬師寺の元管長、高田好胤師は温かく、実に味のあるお人柄で、心の底から尊敬しています。管長が亡くなったときは、一人で号泣しましたよ。

まだ私が大学生（昭和43～47年）の頃、学生運動が盛んで休講が多くアルバイトばかりしていた。当時私の父親と高田管長に交流があり、そのご縁で高田管長とお会いする機会を頂きました。当時下宿をして東京の大学に通っていて、4年生のときには就職先も決まっていたんですが、管長との出会いで人生が変わりましたね。今思うと不思議なご縁が続いていたなあと思います。初めてお会いしたのは、大学1年の時、仲間と京都・奈良に旅行に行ったときです。

父親から高田管長を訪ねるよう言われて、何の気なしに薬師寺に行ってみました。そのときはまさか自分がお坊さんになるなんて思いもしなかった。高田管長はとても多忙な方だったんですが、その後もなぜか僕とよくタイミングがあって、2人でお話するような機会も何度か頂きました。

そんな中、昭和47年1月8日に薬師寺の写経道場落慶式に伺いました。その後の食事会に参加しているとき、「あ、お坊さんになろう」と急に思ったんです（笑）。不思議ですね。内定していた就職先は断り、大学卒業と同時に出家して、薬師寺に入りました。商売をやっていた親には大反対されましたが、僕の心はもう決まっていた。高田管長は人に優しく自分に厳しい人だった。本当に、高田管長のお人柄に導かれてのことです。人が喜んでくれることならやったらよい！が管長のアドバイス。何でもやってみよう！出来なかつたらしかたない。

薬師寺は般若心経の写経を大事にしています。真似るは、学ぶに繋がります。鉛筆で写して30分、これらを寺に奉納します。

仏教（お釈迦様）の教えの中心が「般若心経」。649年、インドより帰還した玄奘が『般若心経』を翻訳したとされている。神様の前でも仏様の前でも唱えるのが般若心経。お経は見るだけでも功德がある。読む、書くともっと功德がある。今日一日をいかに充実して生きるか？

30歳の時に顔面神経麻痺の病気になり、正しい心の持ち方を学んだ。

般若心経には仏教の真髓がこめられている。お釈迦様の教えの原点は、「物事にはすべて原因があり、縁が働き、結果がある」ということです。奇跡は起こらない、現実をよく見つめることが大切なのです。迷いを乗り越えた所に悟りの境地がある。「悟りとは決心すること」。冷静に判断することが大切。

2011年の3月11日の震災後、半年位して被災地を慰問。お線香が欲しいといわれ3000位届けた。その後、物だけではなく被災地で写経をしてもらうことにした。お写経は心の洗濯機。東日本被災地の人々の苦しみを共有することが我々の出来る唯一のことです。岩手県おおづつ町の寺が震災で焼け落ちた。復興を手助けしている。まず復興の鐘をつくり復興の鐘を心をこめてたたいてもらっている。音は大切！

般若心経の「ぎゃーてい ぎゃーてい」の呪文は、「行こう！ 行こう！ 幸せの世界に行こう！ 行こう！」と言っているのです。

お釈迦様の教えは、私達を幸せにする教え。未来の子供達が幸せになるにはどうしたらよいか？を考えると。出来ることを一つ一つすることが大切。

仏教では「正しい方向に向って行く人を菩薩という」瞬間菩薩が積み重なる（継続）と強い力になる。

参考 家田 荘子の般若心経 翻訳

「あなたが、あなたでいることがステキなのです。あなたの個性も、あの人の個性も、尊重します。この世には、あなたにしかできないことがあるのです。あなただからできる生き方が必ずあります。それを見つけて、あなたの道を歩いて行きませんか？ それにはまず、あなた自身を見つめ、よくあなたを知ってください。

何かにしがみついても、一生ものではありません。あなたの心や体も変わって行きますし、この世に存在するもの全てが変わって行くのです。

ヒョイと、流れに乗って、その流れの上に浮かんで、澄んだ宇宙を見上げてみる・・・そういう気持ちで小さな一歩一歩をゆっくりと歩いて行きませんか？

あなたにできることを、あなただからできることをすることによって、歴史や人など、大切なことをあなたが繋げているのです。だから、あなたは、とても大事な人なのです。あなたの歩幅で、人と比べず一歩ずつ、ゆっくりと、あなたのペースで、歩いて行きましょう。」

「くよくよ考えこんでばかりいないで、見方を変えて、とらわれの原因を勇気をもって外に放り出しましょう。そうしたら、青く澄んだ空をあおぎながら、温かく深い海の上に体を浮かべている——そんな穏やかで美しく晴れ渡った心に戻れます。それが、本来のあなたの姿なのです。背暗向明（はいあんこうみょう）。暗い方に背を向け、光の方を目指して自分の歩幅で歩いていきましょう」